

2018年度 タカラ・ハーモニストファンド 助成先 一覧

	助成先 代表者名	助成額 活動地域	テーマ 活動・研究の内容、目的、助成金の用途等
活 動 の 部	大野岳タイワンツバメシジミ保存会 代表者:松本 輝彦	45.3万円 佐賀県	<u>絶滅危惧IBのチョウ「タイワンツバメシジミ」の保全活動</u> 平成 26 年、町のシンボルである大野岳(標高 424m)の頂上付近に絶滅危惧 I Bにランクされた貴重なチョウの仲間「タイワンツバメシジミ」の生息が確認された。その後、県内外からの来訪者が増え、生息地の環境が悪化し本種の生息が危ぶまれる状況にある。そこで大野岳の自然環境を守るため、27 年 10 月には区民有志による保存会を結成し環境整備や保護のための監視活動を続け、平成 29 年 8 月には伊万里市の天然記念物の指定を受けた。全国でもこのチョウの生息数は激減しているおり、この保護活動はマスコミ(NHK、読売新聞、佐賀新聞等)でも報道されることとなった。今後は若い世代にも呼びかけ、絶滅回避活動を充実する計画である。
	大阪府立枚方高等学校 生物飼育部 代表者:三井 裕明	38.5万円 大阪府	<u>守りたい、大阪のカシミサンショウウオ!</u> 環境省レッドリストにおいて絶滅危惧種Ⅱ類であるカシミサンショウウオは、大阪府ではⅠ類に指定されており、非常に希少な両生類である。本種は餌の豊富な土壌豊かな山に棲み、産卵時にはその周辺の綺麗な水溜りに産卵する。それはまさに『豊かな自然が残る場所』であり、本種を守ることは大阪に残る自然を守ることに繋がる。 前年度、大阪府内の山中で本種のオスとメスを採集し、初の試みではあったが人工繁殖に成功し、子世代を親を採集した場所へ放流することができた。今年度はその経験を活かし、より多くの個体を放流するとともに、府内に残る僅かな生息地を調査し、長期的に生息数や科学的な調査を行い、種と生態系の保全に努めたい。
	芦生生物相保全プロジェクト 代表者:高柳 敦	50万円 京都府	<u>生育地外保全による京都府芦生地域の希少植物保護</u> 由良川流域を抱える京都府芦生(京都丹波高原国定公園)には、原生的な冷温帯林が保全されている。固有植物や最南端個体群も集中し、関西有数の植物多様性ホットスポットとして知られる。しかし 2000 年以降、シカ害で下層植生が衰退したことから、植生保護柵による保全活動を行ってきたが、地形的問題から柵設置が困難な場所も多く、希少種の個体数減少が続いている。そのため、特に個体数が少なく存続の危機にある種について、京都府立植物園と京都大学の協働によって、生育地外にバックアップ集団を設立することを目的とする。これにより、希少植物の遺伝資源を効果的に保全し、将来の再導入に向けて個体単位で管理を行うことができる。
	やまがたヤマネ研究会 代表者:中村 夢奈	50万円 山形県	<u>山形の自然はみんなで調べて守ろう! モモンガレスキューレンジャーとの保全調査活動</u> 団体では、山形県で絶滅危惧Ⅱ類に指定されているモモンガの保護地域になりうる環境を山形の水源地・山形県西川町で開拓してきましたが、基礎生態や好適な生息環境は明らかになっていません。2017 年度では、山形のモモンガを調べ・守り・伝えていく地域レンジャー育成プロジェクトを立ち上げ、12 名のレンジャーが誕生しました。現在、地域レンジャーと共に巣箱作成や捕獲調査を行っています。2018 年度では、個体追跡と好適な生息環境調査をしながらレンジャーの技術向上と新規レンジャー育成のプログラム作成を行っていき、地域の自然を調べることも伝えていくことできる山形初の人材育成と活動普及を行っていきます。

活動の部	姫路ジャコウアゲハ倶楽部 代表者:上田 倫範	30万円 兵庫県	<u>姫路市蝶ジャコウアゲハプロジェクト</u> ジャコウアゲハの幼虫の食草ウマノスズクサの増殖に取り組み、自治体や事業所、各種団体と協力してその自生地を保護することで、ジャコウアゲハが姫路市内で飛び交うことが出来る環境を整備します。またジャコウアゲハの生態の研究、幼虫の食草の育成などによって得られた情報を持ち寄ってまとめ、その成果や姫路市の自然環境、風土、歴史、文化を次世代に伝承するために多世代交流を通じて地域理解を促進する役割を果たします。そして次代の担い手である子供たちへ、理科教育・教材としてジャコウアゲハの飼育・観察や専門講師による「ジャコウアゲハ出前教室」の事業を展開して郷土愛に繋がる人材を育てる場を提供します。
	特定非営利活動法人宮代 水と緑のネットワーク 代表者:茂木 俊二	47.4万円 埼玉県	<u>里山の自然観察と体験</u> 新しい村のホツツケは江戸時代大きな沼地を新田開発してできた細長い田んぼと細長い沼地の景観が残る場所です。この田圃の1区画を自ら耕作して、無農薬有機肥料により子供たちに参加してもらい田植え、稲刈り体験を実施している。並行して魚、ザリガニ、昆虫などの生き物と触れ合う場の機会を設定している。毎年、この細長い沼地のホツツケのカイボリを行い生き物調査を実施している。また、8か所の野草保全地を管理し、その場に自生する希少な野草、町内の開発から絶滅が心配される野草を移植し増殖を目指している。稲作体験を実施しながら、生物多様な場所として保全作業を行い、多くの人が癒される里山の自然環境づくりを進めている。
	西表在来植物の植栽で地域振興を進める会 代表者:高祖 徳志郎	48万円 沖縄県	<u>西表島海岸での外来植物駆除、在来植物植栽による原風景回復</u> 沖縄県の海岸では木本・草本外来植物が繁茂して景観を損ねているばかりか、貴重な在来植物の生息を脅かすことで自然環境に悪影響を及ぼしている。当申請では外来植物を駆除して在来の海浜植物、クロイワササ、を植栽することで、琉球亜熱帯海岸の原風景を回復することを目的としている。一方、丈のある植物の繁茂は、漂着ゴミの集積をもたらし、不法投棄の場ももたらしやすい。当活動はこの問題の効果的な解決提案でもある。原風景の回復は、海岸の美化と共に主要産業である観光にも貢献できる。西表島祖納海岸での活動となるが、この活動をモデルとし、沖縄県全域に活動を広げる啓蒙も展開する(既に、沖縄タイムスで活動紹介をしている)。
研究の部	柳井 清治(個人)	50万円 石川県	<u>金沢市犀川河口の伐採を受ける水辺林に生息する陸ガニ類の保全</u> 金沢市郊外犀川河口にある普正寺の森は、多くの市民が訪れる重要なリクレーションの場である。しかし2015年に河道拡幅のため、水際の森林を伐採する計画が県から発表された。この森にはアカテガニなど多くの陸ガニ類が生息しており、これらのガニ類は夏になると水際に降りて幼生(ゾエア)を海に放出することが知られている。水際森林の伐採はこの行動に重大な影響を及ぼし、ひいてはその生息数の激減が懸念されている。また海で成長した幼生(メガロパ)が森に回帰する際にも、水際の森林の状態が影響を及ぼす。そこでこの森に生息する陸ガニの幼生期の生態を解明するとともに、陸ガニ類への影響を考慮した森林保全の在り方を提言する。
	福井 翔(個人)	50万円 北海道	<u>目に見えない、絶滅危惧種オシロコマを襲う外来カワマスによる遺伝子汚染</u> 外来種と在来種の交雑は、生態系に深刻な影響をもたらす。北東アメリカ原産のカワマスは、遊漁目的で、日本やヨーロッパ、北西アメリカなど、世界各地に導入されてきた。北米の外来カワマスは、種間交雑を介し、絶滅危惧種であるブルトラウトの地域個体群を絶滅させている。我が国においても、外来カワマスと絶滅危惧種(VU)であるオシロコマとの雑種らしき個体が北海道の複数河川で見つかっており、北海道のオシロコマ個体群が遺伝的に絶滅する危険性があるものの、その実態は良くわかっていない。本研究では、目には見えない外来カワマスによる隠れた遺伝子浸透が、北海道の河川で、どの程度広がっているのかを明らかにする。

<p>岐阜県立不破高等学校 自然科学部 代表者:磯見 拓也</p>	<p>50万円 岐阜県</p>	<p><u>南宮山に生息するニホンジカの個体識別およびRESTモデルによる密度推定</u> 本校はシカの生息頭数が多いとされる、岐阜県の西部に位置する南宮山の山麓に立地している。南宮山の南北には高速道路と JR 東海道本線が通っているため、南宮山は近隣の山々と隔絶され、シカやイノシシなどの哺乳類が行き来しにくい独特な環境となっている。南宮山は大型哺乳動物の移動の影響が少ないため、シカの密度管理を行うモデル地区にとりして最適な環境であると言える。密度管理の指標を検討するために、南宮山に生息するニホンジカの生態を明らかにする予定である。本研究では、赤外線センサーカメラを南宮山内に設置し、シカを撮影することで、その撮影頻度と時間から南宮山内のシカの生息頭数を算出することを計画している。</p>
<p>鈴木 紀之(個人)</p>	<p>50万円 高知県</p>	<p><u>海岸クロマツ林の多面的機能:希少な昆虫の生息地として</u> 本研究の目的は、海岸の松林が防風や景観だけでなく、希少な昆虫の生息地として生物多様性の維持にも貢献していることを解明することである。わが国の海岸には古くからクロマツが防風林として植栽されており、白砂青松と呼ばれるように、海辺の美しい景観を作り出している。松には希少な昆虫のクリサキテントウが生息している。しかし、本種は出現する時期や場所が限られており、かつ近縁種と区別しにくいいため、分布や生態に不明な点が多い。海と陸を結ぶ海浜の自然環境が全国的に劣化している中、生物多様性の保全という、これまで知られていなかった松林の機能が明らかになり、その価値が改めて認識されるようになるだろう。</p>
<p>助 成 総 額</p>	<p>509.2 万円</p>	